

オウム真理教対策住民協議会ニュース

烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

ひかりの輪の本質と カルト性について

講師 滝本太郎氏

破壊的カルトからの脱会

烏山地域オウム真理教対策住民協議会 第33回学習会要旨

カルトの規定は、教祖あるいは団体の教義に服従させるため、信者の思考を停止させ、監禁や極度の修行を強要する団体であること。オウム真理教は、目的達成に向け信者にLSDや覚醒剤の使用を含め、あらゆる手段を使い、信者の自尊、心を破壊し、教祖に絶対服従する人間を作り上げた。さらに教祖に服従しない信者の被害をも強要するなどし「殺害してその人の魂をより高みへ送る」と、輪廻転生を歪曲し、正当化する教義で殺害を繰り返した。麻原には「命は大切」との概念はなく、そのことが信者にも浸透していった。そして、松本・地下鉄

破壊的カルトからの脱会



主張するが、反対意見が多く、代表を解任されたことで、アレフを脱会しひかりの輪を設立する。脱会とい

つても上祐は、一般信者のように、マインドコントロールからの脱却の苦しみを経験をしたこともなく、自らの利益を優先させた脱会だった。上祐はひかりの輪の運営も単なる事業として捉えている一面もあり、本心を隠したやり方は油断の出来ない存在であり、観察処分が解かれた時はどんな行動に出るかは分からない。

ひかりの輪の現況

ひかりの輪は観察処分を外す事を最大の目的としていて、一部のオウム真理教被害者・文化人・メディアを利用して、正当性を主張。上祐が麻原を批判し否定することで、メディアは上祐がオウム真理教から脱会していると誤って認識して、メディアへの出演を容認してきた。その結果上祐は、社会的には危険のない人物と、間違つて認識される傾向が見られる。さらにひかりの輪を外部から観察すると称し、一般人で松本サリン事件で冤罪を強要された河野義行氏を代表にした外部監査人制度で団体の安全性をアピール。ひかりの輪がアレフから信者の脱会活動を行っていること公表し、社会の公認を求めるなど、団体の安全性の認知に苦心している。一方3月20日の地下鉄サリン事件の命日に信者全員で聖地巡礼に出掛けたり、上

主張するが、反対意見が多く、代表を解任されたことで、アレフを脱会しひかりの輪を設立する。脱会とい

祐自身が、オウム真理教事件は信者全員の責任、麻原と13名の元信者は全員死刑が当然などその言動が信者の不評を買っている。古い出家信者の脱会が進んでいる。

住民協議会の活動

早くもふた昔前の事件とはいえ、アレフもひかりの輪も未だ布教活動を続けている。それに対して監視活動や

足立区「第15回抗議デモ及び集会」に参加して

風の強さが少し気になりましたが、小春日和の11月6日に足立入谷地域オウム真理教(アレフ)対策住民協議会の第15回抗議デモ及び集会が開催されました。入谷中学校校庭には約160名の参加者が集まり、当住民協議会からも2名が参加しました。デモ行進は、近藤足立区長を先頭に午後1時から始まり、拳を振り上げてのシュプレヒコールには、住民の解散・解体を訴える強い思いが回を重ねるごとにパワーを増し、継続してゆくことの大切さを強く感じました。

集会会場である旧入谷南小体育館に入ると、住民協議会によって整然と並べられたスリッパが、参加者を温かく迎えてくれました。集会では、公安調査庁よりオウム真理教(アレフ・ひかりの輪)の現状報告があり、特に札幌市白石区に4階建ての新たなアレフの施設ができ、多くの若者が入信しているとの報告には、施設を抱える足立区の住民協議会にとっては、大きな

抗議デモなどでオウム真理教と闘い続ける住民協議会の活動が、事件を風化させず、観察処分期間更新にも多くの貢献をしている。北海道、名古屋では新たな信者が入信している事例があるが、反対する活動がこれからも重要となっている。

※講師の写真は都合により前回学習会の写真を使用しました。



第33回抗議デモ・学習会のアンケート報告

【実施日】平成28年11月12日(土)

【回収枚数】24枚

【参加回数】初めて(4)、2回目(4)、3回目(0)、4回目(3)、5回目(1)、6回目(1)、7回目(0)、8回目(1)、9回目(0)、10回以上(9)

【デモ・学習会への感想】

- ・とても勉強になりました。もっと多くの方に聞いていただきたい内容でした。
- ・滝本さんも二十年間活動して来られたかと思うと、いろいろ感じるものがあります。故に内容が詳しい、話し方も明確、よどみがなく、早口、さすがです。やはり無関心になる事が一番いけないと再確認しました。
- ・上祐の話が、しっかり聞いて良かった。
- ・オウム真理教からの歴史をふり返ることが出来て本当にためになりました。
- ・住民活動があるから観察処分が適用され上祐の好き勝手を許さない。協議会活動の重要性を知る。
- ・大変勉強になりました。「ひかりの輪」に対してのこれまでの運動が果してきた、役割の大きさを改めて感じました。
- ・観察処分を継続する事の大切さ、監視を続ける事の大切さがわかった。カルト宗教に入らない様にするのはなかなかむずかしい様ですね。
- ・散漫に感じます。絞り込んで大衆へ。また質疑応答を多く。
- ・非常にわかりやすく興味深い内容でした。ありがとうございます。
- ・忘れかけていた事を再確認させられました。上祐がいる事すら知りませんでした。
- ・デモから往来を眺めると「あの親子は、オウム事件を知らない世代だな」とつくづく感じます。また北海道で100名の学生が入信したなどと聞くと胸が痛みます。

【住民協議会について】

- ・継続的な諸活動に敬意を表します。
- ・毎回本当にご苦勞様です。信者にとっては住民活動は非常に圧力になっています。脱会者有志と日刊カルト新聞の藤倉さんなども加わってひかりの輪被害者の会を設立する予定です。住民方々と共に解散を求めて頑張ります。
- ・必要であり重要です。絶えざるご活動に感謝・敬意を表します。

第33回抗議デモでの抗議文全文

抗議文

2007年(平成19年)上祐史浩は、アレフを脱会してひかりの輪を設立した。それから9年が経過し、上祐史浩・ひかりの輪の正体が、いよいよ明らかとなってきた。その実態とは、オウム真理教(アレフ・ひかりの輪)の活動を規制する、観察処分を除外することを目的に、設立した団体だと言うことだ。

それを裏づける一つめは、外部監査委員会だ。松本サリン事件で冤罪となった、河野義行氏を代表に就任させ「安全な団体」をアピールした。ところが昨年末、河野氏が突然代表を辞任したことは、ひかりの輪にとって、想定外の出来事であった。二つめは、自身の売り込みに熱心な上祐が、評論家・映画監督・宗教学者などと対談し、ネット上に動画を配信するなどして、上祐とひかりの輪の社会的な信用と知名度を上げようとたくらんだ。三つめは、オウム真理教被害者へ、少額な賠償金を支払っていることで、被害者に寄り添っているかのような風潮を作り、社会へのアピールに利用している。四つめは、ひかりの輪信者が、アレフの信者を説得して、脱会を促すという活動だが、これこそがアレフは悪、ひかりの輪を正義と描く、独善的な活動だ。以上の4点が際立つが、その他の活動のどれもが、ひかりの輪の正当性を画策するものばかりだ。団体の宗教色を隠し「オウム真理教と決別」との言葉を隠れ蓑に、観察処分の除外を狙う姑息な手法こそが、上祐とひかりの輪のやり方で、そのような偽善的な団体を許すことは出来ない。

「安全な団体」と、社会に猛アピールする一方で、抗議デモの際の抗議文の受け取りは、予定が取れないと拒否を続ける。しかし住民協議会からは、三ヶ月も以前に、デモの日程を知らせていて、デモ当日の10分間の都合がつかないなど、住民を愚弄するもので、その思い上がりを糾弾する。さらに監視活動をしている住民に対し、上祐自身が暴言を吐き、恐怖を与えるなど、ひかりの輪の本質も明らかとなっている。

私たち烏山地域住民は、偽善的で欺瞞に満ちたひかりの輪を、絶対に許すことは出来ない。オウム真理教が存在する限り、ひかりの輪・アレフの解散・解体まで、活動を継続することを宣言する。

平成28年11月12日

烏山地域オウム真理教対策住民協議会
会長 古馬一行

コミュニティーまつりで募金活動

10月20日(日)烏山区民センター前広場で、コミュニティーまつりが開催されました。住民協議会も、広場の一角で募金活動と併せて、甘酒や小物類の販売をしました。会場は、フリーマーケット・おもちゃの販売・野菜や漬物の販売やそば屋さんの出店などもあり、楽器演奏や歌が流れる会場では誰もが楽しそう。住民協議会のブースでは、提供された小物類は、作り手の人柄がにじみ出た、とても素晴らしい品が並び大人気。たくさんの人に見てもらい、自分の好みの物を買っていただきました。当日はあいにくの曇り空で、肌寒さということもあり、甘酒が好まれ、またたく間に売り切れました。おつりは募金にと言ってくれる人、長い間の活動ご苦勞様と募金をしてくれる人と、私たちの活動に暖かい言葉が寄せられ、勇気づけられた一日でした。

住民協議会活動報告

11月12日(土) 第33回抗議デモ・学習会
11月21日(月) 実行委員会
11月25日(金) オウム真理教対策議員連盟総会
11月28日(月) 協議会ニュース161号編集会議(初校正)

12月5日(月) 協議会ニュース161号編集会議(再校正)
12月6日(火) 事務局会議
12月7日(水) 世田谷区主催オウム真理教問題講演会
12月13日(火) 協議会ニュース161号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。